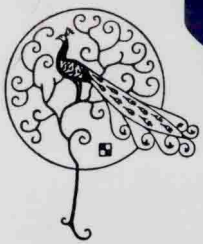
クラウド時代と〈クール革命〉

角川歴彦
角川グループホールディングス
代表取締役会長兼CEO
片方善治 監修



角川oneテーマ21

需要全本请访问 www.ertongbo

角川歴彦（かどかわ・つぐひこ）
1943年東京生まれ。早稲田大学第一政経学部卒業。角川グループホールディングス代表取締役会長兼 CEO。内閣官房知的財産戦略本部本部員、文化庁文化審議会臨時委員（著作権分科会）、社団法人日本経済団体連合会理事、東京大学大学院特任教授、早稲田大学客員教授、東京藝術大学大学院客員教授、神戸芸術工科大学客員教授なども務める。

片方善治（かたがた・ぜんじ）　監修
1928年岩手県生まれ。情報文化学会名誉会長。工学博士。高崎商科大学客員教授、早稲田大学客員研究員、システム研究センター理事長。カーネギーメロン大学卒業後、同大学院（電子工学専攻）、コロンビア大学大学院（通信システム工学専攻）に学ぶ。東京工業大学工学部社会工学科講師、金城学院大学特任教授、日本DEVNET協会会長などを歴任。

図版製作／リプレイ

クラウド時代と〈クール革命〉

角川歴彦（かどかわつぐひこ）　片方善治（かたがたぜんじ）／監修

二〇一〇年三月　十　日　初版発行
二〇一〇年三月三十日　三版発行

発行者　井上伸一郎
発行所　株式会社角川書店
東京都千代田区富士見二―十三―三
〒一〇二―八〇七八
電話　編集　〇三―三二三八―八五五五
発売元　株式会社角川グループパブリッシング
東京都千代田区富士見二―十三―三
〒一〇二―八一七七
電話／営業　〇三―三二三八―八五二一
http://www.kadokawa.co.jp/

装丁者　緒方修一（ラーフイン・ワークショップ）
印刷所　大日本印刷
製本所　大日本印刷

角川oneテーマ21　A-112
© Tsuguhiko Kadokawa 2010 Printed in Japan ISBN978-4-04-710226-2 C0230

落丁・乱丁本は角川グループ受注センター読者係宛にお送り下さい。
送料は小社負担でお取り替えいたします。

クラウド時代と〈クール革命〉

角川歴彦
片方善治／監修



角川 one テーマ 21

目次

需要全本请访问 www.ertongbo

はじめに――角川歴彦　12

第一章　クール・パワーを新しい国力へ　15

一、「クール・ジャパン」を世界へ　16

お台場のガンダムは自由の女神か／ジャパニーズ・ポップ・カルチャー／表現の自由が熱気をつくる／「クール」とはどんな意味か／アメリカで存在感を高める「クール・ジャパン」／香港も「クール・ジャパン」を〝熱烈歓迎〟／集団討議主義vs.天才による作家主義

二、ガラパゴスのままでいい日本文化　29

世界標準がとれない日本／ハリウッド映画がヒットしない理由／薄れゆくアメリカ文化への「憧れ」／精神文化の国への変貌／「オタク」の力で日

本を再生せよ

第二章　新時代への予感　39

一、100年に一度の危機に何を学ぶか　40

アメリカ発の巨大なパラダイム・シフト／チープ革命が情報産業に与えた打撃／賞味期限が切れたマスメディア

二、日本のピークは過ぎたのか？　44

アメリカに遅れた知的所有権と知財戦略／米中「G2」時代をどう受け入れるか／オバマ大統領のしたたかなイノベーション戦略

第三章　「知」のグローバリゼーションからは逃げられない　51

一、**グローバリゼーション嫌いでイノベーション下手な日本人** 52
身を硬くする日本人／突きつけられる第3の開国
二、**人、モノ、金——3段階のグローバリゼーション** 54
パンデミックでわかった「人」のグローバリゼーションの凄さ／「モノ」と「金」のグローバリゼーション
三、**「情報と知識」のグローバリゼーション** 58
21世紀の黒船襲来／内向きな国の「オプト・アウト」と「フェア・ユース」／ブロードバンド時代に至る日本のIT革命史／角川グループの「黒船」対策／時代遅れとなった「放送と通信の融合」政策／フラット化する世界／ネット時代を生き残る国家戦略を
四、「知」のグローバリゼーションがもたらす地上の平和 71

グローバリゼーションの起源／グローバリゼーションと人類

第四章　ｗｅｂ２・０体験記　75

一、ｗｅｂ２・０の出現　76

ｗｅｂ２・０の視察旅行／ユーチューブは投稿動画版のコミケ／「ＩＴ三国志」のはじまり

二、グーグルの登場　82

全てはコミュニケーションにつながる／大衆の意見のマスメディア化／ネットの民主主義

三、アップルの事業戦略　86

アップルの「事業構想力」／「クール革命」を実現したｉＰｈｏｎｅ／日本の企業経営者に欠けるもの

四、アマゾンの世界戦略　92
アマゾンは世界第1位の書店／ネットと物流の融合／キンドルの挑戦／クラウドの先駆者／「グーグルゾン」はいつまで続くか

第五章　クラウドの奇跡　105

一、クラウド・コンピューティングは「21世紀の奇跡」　106
IT革命の次の時代／クラウド・サービスでBtoBとBtoCを区別せよ／新しい〝BtoC〟のインキュベーションとなるクラウド／ついに現れた第3世代検索エンジン――キーワードは「リアルタイム」／巨大知の本質とは何か

二、コンテンツの大バンドル時代　114
クラウド時代に相応しい端末は何か――キーワードは「仮想化」／新しい

端末の次のキーワードはコンテンツの「バンドル」／ｉＰａｄの革命的衝撃／コンテンツ大バンドル時代の到来／コンテンツの大バンドルの予兆／氾濫するコンテンツの海賊版／ネット法の考え方／クラウド時代の著作権管理

三、**21世紀メディアのあり方**　139

バーナーズ＝リーと12人の使徒／グーグルとの闘い／グーグルと文化の多様性／「ＩＴ三国志」の本当の始まり／見えてきたエンディング／ダン・ブラウンの新作『ロスト・シンボル』が語る未来

第六章　アメリカから起こる21世紀の産業革命　153

一、**21世紀の産業革命**　154

アメリカ発「革命」の予感／不確実性に満ちた「果ての国」／「ブラッ

需要全本请访问 www.ertongbo

ク・スワン」現象／クール革命が「果ての国」では日常的に起こる／史上最強の知財国家へ

二、**クラウド・コンピューティングから産業革命が起こる** 159

企業がコンピューターを買わなくなる社会／偉大なエジソンから学ぶこと／巨大な「規模の経済」を生むクラウド・コンピューティング／クラウド的サービスと偽者クラウド／クラウド・コンピューティングの信頼性

三、**「月並みの国」日本でも革命は起こる** 167

アメリカの成功は社会の不安が代償／果ての国の問題点／ニューヨーク夜明けの幻想／日本やヨーロッパは「月並みの国」／日本でも進行中のクール革命／知の革命のさらに先の未来／細田守の『サマーウォーズ』とスピルバーグが描く未来

第七章　提　言 183

一、日本の情報安全保障に問題あり　184
情報植民地化の危機に立つ「月並みの国」／グーグル、NASAとの提携の意味／国際競争としてのIT／アメリカ勢によるIT市場の独占／必須のIT安全保障へ

二、国家プロジェクトとしてのクラウド革命　191
2014年アメリカのクラウド産業革命はこうなる／クラウド・コンピューティングは次世代情報インフラ／クラウド基盤の構築は国家プロジェクト／日の丸クラウド「東雲（しののめ）」プロジェクト／低迷する日本のICT競争力／21世紀型ネットワーク社会の建設

解　説――片方善治　210

参考文献　213

はじめに

人々を取り巻く「情報」「知識」「コミュニケーション」の風景はこの20年ほどの間に一変した。もはやパソコンは、テレビや電話と同じように日常生活に欠かせない情報ツールとなった。

にもかかわらず、ＩＴ産業は今、ｗｅｂ２・０の興奮が収まり、活力を失ったかのように見え、２００８年後半に顕在化した未曾有（みぞう）の金融危機により、ＩＴ業界の成長神話の陰りが色濃くなったようにも感じられる。

だが、21世紀に入って技術革新は日々加速している。現在はｗｅｂ２・０の踊り場にすぎず、〝ポストｗｅｂ２・０〟による革新は水面下で着々と進行し、さらに次の時代の大きな変化を巻き起こそうと準備をしている。その究極の姿のひとつが、アメリカの大手ＩＴ企業を中心に広がるクラウド・コンピューティングの潮流であり、世界中の産業構造やＩＴサービスを根本的に変えようとしている。

私は出版企業グループの経営者として長年、活字文化や出版を取り巻くさまざまな事象を見聞きし研究してきた。しかし、ここ数年は、関心の大部分をＩＴ技術やメディア産業の動向に奪われている。グーテンベルク以来５００年もの歴史を誇る印刷・出版産業と比べ、ＩＴの世界は移ろいがあまりに速く、ダイナミックだ。

そうした混沌の中で、物事を考える拠り所を探し求め、いくつかの確信を持つに至った。例えば、いまアメリカから起こりつつある急速なＩＴの進歩や情報環境の変化は「知」のグローバリゼーションを加速させ、産業革命に匹敵するインパクトを日本にも与えるだろう。

その際に産業や市場の趨勢を決める主役は、情報の消費と発信とを共に担う大衆にほかならない。21世紀に入って大衆は１４０字でつぶやくマイクロブログの「ツイッター」などを媒介にして無名の「個人」からリアルタイムの巨大な「メディア」となった。「大衆」の英知に誰もがアクセスでき、大衆が「すごい」「カッコいい」「クール」と賞賛するモノや出来事が社会を変革していく。それが「クール革命」だ。

その結果、ＩＴ先進国のアメリカでは、名だたる新聞社や出版社の淘汰と統合を通してメディアの激震や産業構造の変化が急速に進んでいる。アメリカに追随する日本にその波が到来するのはおそらく２０１４年だ。新しい時代には、大衆の気分と「クール革命」を見極め

る豊かな「事業構想力」を持った知的企業だけが、生き残る。

本格的なクラウド時代になるとインターネットはネットワーク社会を出現させ、生活保護・年金あるいは病気・事故などの社会を支えるセーフティネットとしてもその存在感を高めるだろう。国家は、国民の安心と安全を保障するネットワーク社会を実現させるためにインフラ作りにおいて重要なプレイヤーとしてその役割を積極的に果たすべきだ。

こうした考えを書籍で伝えたいと原稿をまとめはじめてから2年余りが経過し、その間もＩＴ業界やメディア産業では驚くような変化の嵐が吹き荒れた。走りながらの執筆ではあるが、最新の情報と、そこから浮かんだ新しい考察を可能な限り盛り込むよう心がけた。私と同じように変化の時代に立ち向かわなければならない経営者やビジネスマン、クリエイターたちとともに、「クール革命」時代を生き抜く道を今後も考えていきたい。

２０１０年２月

角川　歴彦

第一章　クール・パワーを新しい国力へ

需要全本请访问 www.ertongbo